

# AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究抄録(2022.4)令和2・3年度:

## 壮年期にある有職の心不全患者が心臓リハビリテーションを継続できた要因

旭川医科大学病院 9階西ナーステーション

○川潟頌子 石井満里恵 田中瞳

### ○研究の目的

心リハを行う患者の、心リハに対する感情の変化やモチベーションを明らかにし、入院中にできる看護師の関わりを検討し、心不全患者への教育の質の向上と強化につなげる。

### ○結果・考察

継続困難な要因として患者自身が心リハの本質を十分に理解しないまま臨んでいたこと、意欲的に実施できなかったこと、心リハを継続していくための金銭面の不安や、仕事場での疾患の理解が心リハの継続に影響を及ぼすと考えられた。しかし今回の研究では継続困難な要因があるにもかかわらず、多方面からのアプローチがあったことで心リハを継続することができていた。心リハを継続的に行うことで心機能の改善など身体的変化を実感し、医師・理学療法士など多職種との関わりを通して、心リハは単なる筋力増強を目的とした運動ではなく治療であると理解することにつながった。また周囲からの励ましがモチベーションにつながり、患者が自分から職場に疾患や受診のことを伝え、周囲から理解が得られたことで、受診の調整をすることもできていた。有職者の生活の場は家庭や仕事の主であるため、生活の場である職場の理解が得られたことは心リハ継続の重大な要因となったと考える。